

- ・ 水産政策委員会で「連続シンポジウム・ワーキンググループ」に不参加決定  
(平成 23 年 9 月 14 日)

### 「連続シンポジウム・ワーキンググループ」に不参加決定

このたび、日本水産学会政策委員会は、日本学術会議 土木工学・建築学委員会を主体とする「東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡協議会」が主催する「連続シンポジウム」に参加しないことを決定しました。不参加の理由は以下の通りです。

平成 23 年 9 月 14 日

日本学術会議 土木工学・建築学委員会  
東日本大震災の総合対応に関する連絡会  
「連続シンポジウム」取りまとめ担当殿

#### 「ワーキンググループ」不参加の理由

今回の地震・津波及びそれに引き続く原発事故は、広く国民に工学技術およびそれを専門とする研究者に対する不信感を招きました。関連学界全体としては、関連分野の研究が内包する問題点を、真摯に反省することが求められています。

連続シンポジウムのテーマ（案）を見ると、こうした分析をテーマにするものは皆無であり、それらの反省が明示的に含まれない形で、防災や復興が語られようとしています。こうした態度は、災害をも研究に利用しようとするものと、国民一般から受け取られかねません。これらは、テーマの例示であって最終的な内容は、シンポジウム企画委員会で作られるべきものかもしれませんが、それぞれのシンポジウムは切り離されており、おそらく、他学会が行うシンポジウムの内容に強くかかわることは実質的にできないでしょう。こうした中で、農学関係者にも、1回のシンポジウムが割り振られています。水産関係に関しては、「小規模水産業から大規模水産業への移行」のようなテーマが例示されています。例示にすぎないにしても、災害を受けて現に苦しんでいる人々に対して、災害の拡大に少なからず関与した学会が言うべき言葉ではないでしょう。水産業の適正な営業規模は、水産業者が考えればよいことであって、水産学の中で議論すべきことです。このような「連続シンポジウム」に加わることは、我々日本水産学会として、国民一般からその良識を問われかねません。

以上の理由で、シンポジウムには加わりません。

日本水産学会政策委員会  
委員長 黒倉寿